

個人年齢の推定方法に関する若干の覚書き

——西部ジャワ・スンダ人村落での調査から——

五十嵐 忠 孝*

Some Notes on Methods of Age Estimation: An Attempt in a Sundanese Village, West Java

Tadataka IGARASHI*

Age misstatement, presumably derived from the lack of a tradition of reckoning age by single years at the last birthday, is a notorious problem in obtaining correct age data by house-to-house canvassing in rural Java. Given this situation, I attempted in the course of ecology-oriented fieldwork to estimate ages at a Priangan-Sundanese village by a variety of means. This paper presents firstly a brief analysis of the age data collected directly from the inhabitants, which shows that their age reporting is so strongly biased that age data based solely thereon could be detrimental to demographic and biosocial studies. I then describe my attempt to obtain age estimates and some of the difficulties en-

countered in the field. Individuals' ages were estimated by a combination of the usual techniques, *i. e.*, locating a person's "private event" with a "public event" of established year of occurrence, checking a person's age rank against those of a number of neighbors, and seeking the Gregorian date of birth in the Islamic-Gregorian calendrical conversion table by making full use of the traditional practice of expressing birthday in terms of Islamic month, date, day of the week, etc. Although each technique used has some weak points, their combination may provide reasonable, if not precise, estimates of age. Since my fieldwork is still in progress, the results of the age estimation will be reported elsewhere.

はじめに

本稿は、筆者が、インドネシア、西ジャワ・プリアガン高地のスンダ人農村で行なった生態学的調査の一環として試みた年齢の推定作業にもとづき、その方法の概要と問題点について、村人の年齢意識の一端にも触れなが

ら、報告することを目的とする。本稿の記述および若干の資料は、1979年の2月から3月、および1981年の11月から12月に同一の部落で行なった調査にもとづく（以下、それぞれを79年調査、81年調査と称する）。¹⁾

調査を行なったのは、バンドン県パセー郡

* 東京大学医学部人類生態学教室；Department of Human Ecology, Faculty of Medicine, The University of Tokyo, 7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113, Japan

1) 1981年11月に開始された2回目の調査は、現在もなお進行中である。この2回の調査は、日産科学振興財団の研究補助金による「インドネシア人類生態学調査——とくに村落住民の生計維持機構と人口現象——」（代表者：群馬大学医学部公衆衛生学教室鈴木庄亮教授）の一部である。

チグントゥール村に属する部落(kampung)²⁾で、サラムンカル(Salamungkal または Slamungkal) とよばれ、西ジャワ州の州都バンドン市の東南東約42 km (地図上の直線距離は30 km弱)の尾根上に位置し、標高は800 m余である。この部落は新旧いくつかの集落(lĕmbur)に分かれているが、いずれも棚状の水田に囲まれ、山手には畑地・休閑地・森林が広がる。水田耕作は1年に約2回の収穫をもたらすが、米の自給度は60~70%にすぎない。水田非所有世帯が全標本世帯の37.7%を占める一方で、上位9.8%の世帯が全水田面積の52.1%を所有している[五十嵐 1981a]。米の不足分は、畑地で自家・換金目的に栽培されるタバコ、トウモロコシ、キャッサバ、陸稻などによるほか、バンドン市への苦力出稼ぎによる収入で補われている。

サラムンカル部落は約300世帯からなるが、筆者が対象としたのは、このうち“本来のサラムンカル”といわれ、もっとも山手に位置する3集落から無作為に選んだ79世帯(ただし79年調査時)およびこれらからの独立・派生世帯(ただし81年調査時)である。

I 問題の所在

後発地域における年齢申告の不正確さ、ないしこれにもとづく年齢分布のゆがみは、従来からも多くの識者によって指摘されてきた。Djajanegara [1970] や Singarimbun [1976] が述べるように、インドネシアの年齢資料もその例外ではない。van de Walle [1966] によれば、インドネシアのセンサス

2) 以下の記述におけるスンダ語の綴りは、[ə] を ě, [e] を é と表わすのを除き、新表記法に従う[PPPB 1977]。なお、調査地を含む地方で話されているスンダ語は、lurah (村長), lĕmbur (集落), tandur (田植え) をそれぞれ rurah, lĕmur, tanur とするなど、標準的スンダ語とやや発音を異にするが、本稿では原則として標準的綴りを記す[LBSS 1976]。

報告にみられる年齢分布のゆがみは、熱帯アフリカ諸国に共通してみられるそれと同様で、その理由もまた同様であるという。

van de Walle の指摘するいくつかの特徴的なゆがみの一つ、すなわち、女の15-19歳階級のくぼみは、筆者が79年調査時に得たサラムンカル部落の年齢分布にもみられる(図1)。この図に使われている年齢は、あなた

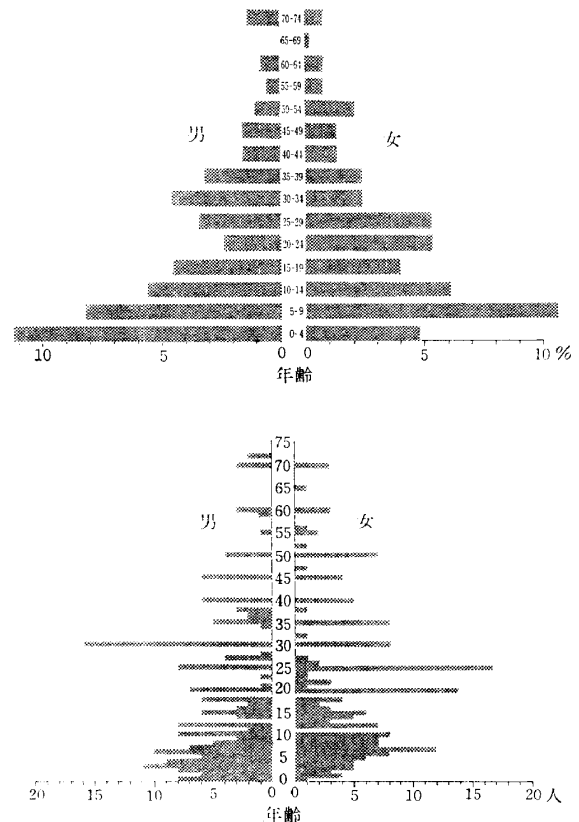


図1 1歳間隔および5歳間隔によるサラムンカル住民の性別・年齢別分布(79標本世帯, 1979年2月)。

(あるいは当該人物の名前)は現在何歳か、という筆者の問いに対して、世帯主およびその配偶者はそれぞれ本人が、未婚の子供は父親ないし母親が答えた年齢(以下、これを「申告年齢」という)を用いている。このような女の15-19歳階級にみられるくぼみを、van de Walle は「もともとこの年齢階級に含まれるべき者のうち、既婚者は自己の年齢

表1 1979年と1981年の2時点における申告年齢の増加分の分布

既婚・未婚の別*	N	1981年調査における申告年齢と1979年調査における申告年齢の差（歳）													増加分の平均値（歳）**
		-3	-2	-1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1979-81年の間に初婚を経験した女	11	0	0	0	0	1	1	4	0	2	1	1	0	1	4.27
1981年においてもなお結婚経験なしの女	13	1	0	1	1	1	5	2	1	1	0	0	0	0	1.69

* 実際の暦年齢が14-20歳程度と推定される女。

** 危険率5%で有意差あり(Mann-Whitney のU検定: $U_{cal}=29 < 37, n_1=11, n_2=13, \alpha=0.05$)。

を高く述べる傾向があるため、その何割かが20-24歳階級に、反対に未婚者は低めに述べるため、その一部が10-14歳階級にそれぞれ編入されるために生じる」と説明する。

表1は、サラムンカル部落において79年調査と81年調査の2時点間に初婚を体験した女11名(ただし、81年調査時までに離婚した者を含む)、および彼女らと sēsama (ほぼ同年齢の者、後述参照)と彼女ら自身が認める者(女)のうち、81年調査時においてもなお結婚経験のない者13名について、それぞれ両時点間の申告年齢の増加分(81年調査時における申告年齢から79年調査時におけるそれを減じた差)の分布を示す。81年調査は79年調査の約2年9カ月後に行われているから、村人の間に暦年齢を数える習慣があれば、申告年齢の増加分は2歳ないし3歳となるはずである。表1にみるようにこの増加分は、両時点間に初婚を体験した群では1歳から9歳の間に分布し(最頻値は3歳)、平均的には4.27歳も“歳をとった”のに対し、81年調査時になお未婚であった群では、マイナス3歳からプラス5歳にかけて分布し(最頻値は2歳)、平均的にはわずか1.69歳“歳をとった”のみである。上述した van de Walle の説明は、筆者の調査対象にもあてはまる。³⁾

3) これは Iskandar [1970: 35] や上野 [1944: 15] などが示す資料をはじめ、キリスト教徒であるミナハサ人などを除くと [Djajaneegara 1970], インドネシアの年齢資料に広くみられる現象である。

10代後半の既婚婦人が自己の年齢を過大申告する傾向がある一方で、T. H. Hull [1975: 409] は、中部ジャワの農村における調査から、既婚婦人は一般に自己の年齢を実際よりも若く申告する傾向があると指摘している。T. H. Hull によれば、妊娠歴から推定された年齢にもとづいて40-44歳階級に区分された婦人のうち、40%以上の者の申告年齢⁴⁾は40-44歳より若く、その大部分は35-39歳の間であったという。

T. H. Hull の指摘する傾向は、筆者の79年調査時の資料にも間接的にみられる。図2に示すように、横軸に既婚婦人の初婚年齢をと

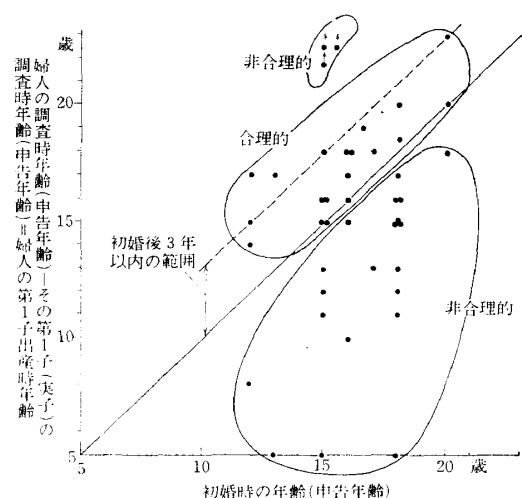


図2 第1子出産時年齢と初婚年齢との関係

4) 本稿でいう「申告年齢」は、T. H. Hull [1975: 400] の用語に従えば census age に相当する。

り、縦軸に当該婦人の第1子出産時年齢（ただし、これは、婦人の調査時年齢から、その婦人の第1子の調査時年齢を差し引いた値）をとる。この図で用いた3種類の年齢（初婚年齢、調査時年齢、および第1子の調査時年齢、いずれも申告年齢）がすべて実年齢に一致していれば、大部分の婦人は図中右あがりの対角線より上の「初婚後3年以内の範囲」にプロットされるはずである。ところが、約半数の婦人は対角線の下にプロットされ、これらの婦人は“初婚以前の5歳から18歳までの間に第1子を生んだ”ことになる。3種類の年齢のうち、実年齢との差がもっとも小さいのは第1子の調査時年齢で、反対に実年齢との差がもっとも大きいのは婦人の調査時年齢であると予想することができるから、図2において対角線の下に位置する婦人については、これら婦人の述べた自己の年齢が実年齢よりはるかに“若い”（すなわち、年齢の過小申告が行われた）ために生じた現象と考えることができる。以上とは反対に、年齢の過大申告が行われた可能性を示すのは、対角線のはるか上方にプロットされた3例の婦人である。

次に、横軸に第1子の調査時年齢をとって（縦軸は同様）、図2を作図しなおすと図3が得られる。第1子出産時の婦人の年齢は、

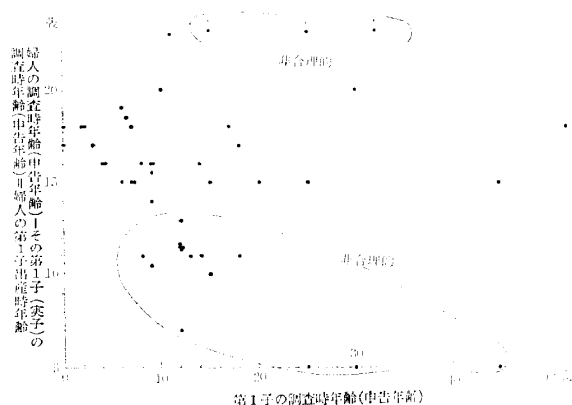


図3 第1子出産時年齢と当該第1子の調査時年齢との関係

およそ、15歳を下らず20歳を上回らない範囲と予想できるが、図3にみるように、第1子が8歳未満の婦人では、第1子出産時の年齢がこの範囲に含まれる。ところが、第1子年齢が8歳以上の婦人の中には、第1子出産時年齢が考えられないほど“若い”例がみられる。すなわち、仮に、第1子の出産が平均的に17-18歳で行われているとすると、その第1子が8歳になるころは、母親は25-26歳であるから、この年齢以前の母親は自己の年齢を比較的正確に認識している者が多い一方、この年齢を超えるころから、母親の認識する自己の年齢は一向に“歳をとらず”，結果として年齢の過小申告が行われることになる。なお、第1子出産時年齢が考えられないほど高齢である婦人はわずか3例にすぎないが、いずれも第1子の年齢が15歳以上の婦人で、第1子がこの年齢を超えるころから、母親の中には自己の年齢を実際よりも“年寄り”に述べる者が現われるらしい。

以上までに断片的にとりあげたような年齢分布の特徴的なゆがみ、および筆者の経験から、スンダ農村婦人の自己年齢の認識には、およそ以下に述べるような傾向があるらしいと筆者は考えている。すなわち、

- 1) 女の子は初潮を迎えるころから結婚適齢期に入るが、⁵⁾この段階の女の子の年齢は、自己によっても親によっても、約15歳と考えられている。
- 2) 女の初婚年齢は14歳ぐらいから20歳までであるが、最初の結婚をしたばかりの女、ないし第1子を生んだばかりの女の多くは、自己の年齢を20歳ないし25歳と述べる。⁶⁾このため、15-19歳階級に含ま

5) 実際には、初潮の数年前に初婚を経験した婦人がかなりおり、厳密にいうと女の結婚適齢期は初潮以前の段階から始まる。

6) T. H. Hull [1975 : 412-414] は、この辺の事情を、インタビューである都会人に自己の早婚を知られたくないため年齢を過大に述べる、と説明するが、筆者は賛成できない。

れるべき女のうち、既婚者だけが選択的に20-24歳ないし25-29歳階級へ繰りあげられてしまう。

- 3) 以降しばらく婦人の認識する年齢は“歳をとらない”が、実年齢でおよそ35歳ないし40歳を超えるころ(第1子が娘であれば、その娘が結婚するか、あるいははじめての孫を生むころ)から、婦人の認識年齢は急に“歳をとり”,たとえば50歳と述べるようになる。

- 4) それ以降も同様に、認識年齢の停滞とその後の急激な増加が繰り返される。

要するに、年齢がいくつになったから結婚をしよう、というのではなく、これとは逆に、結婚をしたから自分はいくつになったというように、個人にかかわる event がまず生じ、それに従属して当該個人の年齢が自己によっても社会によっても認識されているらしい。

このような event 依存的な⁷⁾年齢認識の傾向は、たとえば、婦人の初婚年齢(申告年齢)の分布にみることができる。79年調査時において、既婚婦人に初婚時の年齢をたずねた結果によると、16歳と18歳のそれぞれにピークをもつ2峰性の分布が得られる。この理由を筆者は、16歳は女子の結婚最適年齢と村社会において考えられている年齢に一致しており、18歳は規則上、女子の結婚可能な最幼少年年齢であるため、筆者に問われた婦人の多くが、初婚年齢としてふさわしい年齢(16歳)か、または結婚可能な最幼少年年齢(18歳)のどちら

かを選好した結果による、と考えている。⁸⁾女子の初婚体験は事実としても比較的狭い年齢幅で集中的に生じるが、しかし event 依存的な年齢認識にもとづいて選好された資料は、事実以上に狭くゆがんだ年齢分布を示す危険性がある。⁹⁾

以上までに述べてきたような年齢認識の傾向から、応答者が申し出る自己あるいは子供の年齢は、ある方向へのずれが強くなかったものであり、同時に、このため年齢の過大申告の生じ易い年齢層と過小申告の生じ易い年齢層が、実年齢の増加に伴って、交互に存在する可能性があり、また、ある方向へのずれが、年齢層によっては、5歳間隔の年齢階級を二つないしそれ以上も飛び越えるほどで、従来から考案されてきたいくつかの年齢分布の補正方法で仮定される年齢の集積傾向¹⁰⁾と合致しないほど激しい場合も予想される。さらに、このようなずれの強くなかった年齢資料の利用は、個人ごとの年齢と対で扱う人口

8) チグントゥール村の村役人のひとり、宗務係(amil または lëbé)の話によれば、女子の結婚可能な最幼少年年齢は18歳であるという。この宗務係は村で行われるすべての結婚式に立ち会い、郡(kěcamatan)の宗教局(kantor urusan agama)から来る宗教役人(naib)が行う結婚届の補佐をする。このとき、宗教役人が新郎・新婦に向かって行う形式的質問の一つとして年齢をたずねるが、この質問に対しては18歳と答えるようにあらかじめ宗務係が新婦へ教え込んでおくのである。筆者はこの場面を何回か目撃する機会があった。

9) 以上と同様な年齢の認識傾向を T. H. Hull [1975:412] も、例をあげて、指摘する。すなわち、実年齢が16-17歳であった生徒の例を引き、この生徒が10-14歳階級に区分されていた理由を、実は落第経験をもつにもかかわらず、現在属する学年にふさわしい年齢を申し出たため生じた、と説明する。

10) たとえば、特定年齢への集積が、その年齢を含む年齢階級でのみ生じているという仮定、あるいは集積のある年齢の前後数歳の間に実際人口が等差級数、ゴンペルツ曲線などの特定分布をしているという仮定など。

7) 本稿で「event 依存的な……」というときの event とは、たとえば小学校への入学・卒業、初潮、結婚、第1子出産、第1子の結婚などである。これらは Scott *et al.* [1970] のいう private event に属するが、ただしこのうち自己の記憶に残るもののみである。したがって、自己の出生、割礼などは含まない。なお、男の子の割礼は1-2歳から7-8歳までの間に行われるので [Igarashi 1980], 自己の割礼体験を記憶しない者が多い。

学的あるいは人間生物学的資料の利用価値を、いちじるしく減じる。ここに、個人ごとに妥当な年齢を何らかの方法により推定せざるを得ない最大の理由がある。

II. 個人年齢推定の試み

前節でその一端が明らかになったように、スンダ農民の述べる年齢は、多くの場合、正しくない。¹¹⁾しかし、いうまでもなく、彼らは、Howell [1979: 25] が !Kung についていうように、“年齢の概念をもたない人々”ではまったくない。それどころか、少なくとも筆者が接した人々は、出生年から現在年までの経過時間が umur (年齢) であることぐらいは知っている。¹²⁾ただ、村人がしばしばいうように、出生年を“書き留めておかない”ので“忘れる”結果、ふだんは気にも留めない年齢を、たとえば筆者に問われると、event 依存的に“推定”するのである。村人自身によって“推定”された年齢が、すでに述べた「申告年齢」であるが、これが実年齢

に近いものか、あるいはどの程度隔たったものかを推定・確認する過程が、以下にその概要を述べる一連の作業である。なお、以下の記述は、原則として調査時に対象部落に居住していた者を念頭においており、すでに移出した者、すでに死亡した者については考慮していない。

1) 過去の出来事を利用する方法

村人に広く知られている過去の「出来事」¹³⁾から、発生年代の判明しているものを選び、ある個人の事件発生当時の記憶（まだ赤子であった、小学生であった、など）をもとに、現在の年齢を推定する方法（以下「出来事法」と仮称する）は、Fortes [1954: 271] によれば“通常の民族誌的技術”といわれるほどで、後発地域の小社会を対象とする多くの分野で広く使われてきただけでなく、大規模調査においても緩用されることがある。ジャワ島村落社会を対象としたいくつかの調査においても利用されてきており、¹⁴⁾またインドネシアの1971年と1980年のセンサス時にもこの方法が併用されている [BPS 1971: 17; 1980: 21-22]。

この方法を適用する場合、まずはじめに行う作業は、過去の出来事を発生年順に並べた表（これを以下、「出来事表」とよぶ）を作成することである。表2は、筆者がサラムンカル部落でこの方法を試みた際に用いた出来事表（ただしスンダ語から日本語への仮訳）

- 11) 「年齢」を文化的脈絡でみる立場からは、この表現は適切でないかもしれない。この見方にたつ限り、もっとも近い過去の誕生日までの経過年数を年齢とする方式（満年齢方式）はむしろ、もっとも近い将来の誕生日までの経過年数を年齢とする方式 [Chamrathirong *et al.* 1978] や、出生時を1とし、新年を迎えるたびに1を加算する方式（数え歳方式） [You 1959] に従って述べられた年齢だけでなく、スンダ農民の述べる年齢もまた正しいといえるかもしれない。しかし、前三者が毎年一定の日付（誕生日ないし新年）を基準に1を加算するという意味では、いずれも暦年齢であり、したがってわれわれの必要とする満年齢への換算が可能であるのに対して、スンダ農民の場合はそれが不可能であるという点で決定的に異なる。
- 12) したがって、自己（または子供）の出生年を記憶している村人は、現在年から出生年を差し引いた残りを年齢として答える。ただし、誕生日前は1歳を減じるというような満年齢方式を承知している村人に、筆者は出会ったことがない。

- 13) ここでいう「出来事」は、Scott *et al.* [1970] の用語に従えば“public event”である。本稿では「出来事」、「public event」のいずれをも用いる。なお注26参照。
- 14) たとえば、ジャワにおける出生力に関するパイオニア的研究 [V. J. Hull 1980] といわれる Singarimbun らによる Mojolama Project [Singarimbun *et al.* 1976] をはじめ、T. H. Hull [1975], V. J. Hull [1975: 63], 加納 [1979: 35-37], Mantra [1981: 37-38], Sajogyo *et al.* [1980: 34] など。

表2 出来事表

事件 番号	発生年月日	出来事 (public event)*	発生年 確認の 方法**	事件発生か ら調査時現 在までの経 過時間***
1.	1981年9月17日?	H. Usman 氏, はじめて螢光燈を購入	A	3月?
2.	1981年7月26日	日本人再び来たる	—	5月
3.	1981年4月	コレラ流行	C	8月
4.	1980年11月14日	Paséh 郡より Ibun 郡が分離独立	A*	1年1月
5.	1980年10月	第3回国勢調査	C	1年2月
6.	1980年7月	Rukman 氏, 村長となる (Danta 村長やめる)	B	1年5月
7.	1980年6月?	H. Usman 氏, はじめてミカンの苗を購入	A	1年6月?
8.	1980年5月?	Usin 氏, はじめて稲の短稈品種を導入	A	1年7月?
9.	1980年? (雨季)	Bojong 部落で大洪水	A	1年10月?
10.	1979年2月1日	日本人来たる (同年5月末まで滞在)	—	2年10月
11.	1979年1月?	Sujana 氏, はじめてテレビを購入	A	2年11月?
12.	1978年1月	Rasyidi 氏, 宗務係となる (Dahlan 宗務係やめる)	B	3年11月
13.	1977年5月2日	第3回総選挙 (Pasir Panjang 部落で投票)	C	4年7月
14.	1976年10月1日	Pasir Panjang 部落の小学校 (Inprés) 開校	B	5年2月
15.	1976年7月17日	東チモール, インドネシア共和国の1州となる	C	5年5月
16.	1976年?	Ciluluk 村, Paséh 郡より Cicaléngka 郡に編入される	A	5年?
17.	1975年?	Sujana 氏, はじめてバイクを購入	A	6年?
18.	1974年12月1日	Caca 氏, 書記となる (Rukman 書記やめる)	B	7年
19.	1974年1月15日	反日運動 (Malari)	C	7年11月
20.	1972年?1973年?	H. Usman 氏と Dayat 隣組長, はじめて nila (アフリカ 原産の淡水魚, <i>Tilapia nilotica</i>) を導入	A	8~9年?
21.	1971年?	Bahri 氏, 第19隣組長となる (Suganda 隣組長やめる)	A	10年?
22.	1971年9-10月	第2回国勢調査	C	10年2~3月
23.	1971年7月	第2回総選挙 (Sardagé 部落で投票)	C	10年5月
24.	1970年6月21日	前大統領 Sukarno 逝去	C	11年6月
25.	1968年?	Dayat 氏, 第20隣組長となる (Sujana 臨時隣組長やめる)	A	13年?
26.	1968年はじめ?	Surya 第20隣組長ほか, はじめてスマトラへ移住 (Sujana	A	13年?
27.	1967年 Rēwah 月, Puasa 月	氏, 臨時第20隣組長となる) 飢饉	B	14年
28.	1967年1月28日	Rukman 氏, 書記となる (Harom 書記やめる)	B	14年11月
29.	1966年?	Udin 氏, 第19隣組長となる (H. Darajat 隣組長やめる)	A	15年?
30.	1966年?	Karmana 氏の息子 Amin, はじめて病院で割礼を受ける	A	15年?
31.	1966年7月1日	Cigēntur 村第4小学校開校	B	15年5月
32.	1966年3月11日	Suharto 将軍, 権力を握る (Sukarno 大統領退官, Super- semar)	C	15年9月
33.	1965年12月	1,000ルピア, 1新ルピアと命名される	C	16年
34.	1965年9月30日	9.30事件 (Géstapu)	C	16年3月
35.	1964年	国民学校 (sakola ra'yat), 小学校 (sakola dasar) と名称 変更	C	17年
36.	1964年5月3日	マレーシア紛争 (Dwikora)	C	17年7月
37.	1963年?1964年?	Darman 氏, 第21隣組長となる (Saryo 隣組長やめる)	A	17~18年?
38.	1963年8月5日	東イリアン, インドネシア共和国の1州となる (イリアン 紛争 Trikora, 1961-1963年)	C	18年4月
39.	1962年4-6月	Dar'ul Islam 討伐作戦 (1962年6月4日 Kartosuwiryo 捕 わる)	C	19年6~8月
40.	1961年10月	第1回国勢調査	C	20年2月
41.	1960年?1961年? (雨季はじめ)	Sukaramé 部落で大風	A	20~21年?

五十嵐：個人年齢の推定方法に関する若干の覚書き

42.	1959年7月28日?	3人の兵士 (OPR), Dar'ul Islam により銃殺	A	22年5月?
43.	1959年7月5日	指導された民主主義	C	22年5月
44.	1957年?	Danta 氏, 村長となる (H. Karmawinata 村長やめる)	A	24年?
45.	1956年 Mulud 月?	兵舎, Dar'ul Islam により焼打ち, 兵士3人撃たる	A	25年2月?
46.	1955年9月	第1回総選挙 (Cigëntur 部落で投票)	C	26年3月
47.	1955年4月18日	バンドン会議	C	26年8月
48.	1953年?	Oma 氏, 第7区長となる	A	28年?
49.	1951年8月31日	降灰 (Kēlud 山の大噴火による)	C	30年4月
50.	1949年7月?(乾季)	Oma 氏宅, 共和国軍により焼打ち	A	32年5月?
51.	1949年?	Salamungkal, Bingkur, Cilodong の3部落, 共和国軍により封鎖される	A	32年?
52.	1948年2月1日より	Siliwangi 師団, 中部ジャワへ撤退	C	33年10月
53.	1947年末?1948年?	H. Karmawinata 氏, 村長となる (H. Junaédi 村長やめる)	A	33~34年?
54.	1947年?1948年?	Abdul 氏自殺	A	33~34年?
55.	1946年10月20日より	日本軍票と共和国通貨の交換	C	35年2月
56.	1946年3月23-24日	バンドン火の海事件	C	35年9月
57.	1945年8月17日	独立宣言	C	36年4月
58.	1944年末?	H. Junaédi 氏, 村長となる (Adiwiastastra 村長やめる)	A	37年?
59.	1944年?	Uriya 氏, 妻を殺害	A	37年?
60.	1942年?(乾季)	熱病流行	A	39年?
61.	1942年3月1日	日本軍上陸	C	39年9月
62.	1939年?	生活改善運動	A	42年?
63.	1934-1936年?	疫病	A	45~47年?
64.	1931年?	Adiwiastastra 氏, 村長となる (Jayadikarta 村長やめる)	A	50年?
65.	1930年?	モスク建立	A	51年?
66.	1930年12月18日	降灰 (2回目, Mērapī 山の大噴火による)	C	51年
67.	1930年10月	国勢調査	C	51年2月
68.	1928年10月28日	青年の誓い	C	53年2月
69.	1927年?	Salasih 山頂の山火事	A	54年?
70.	?	職田 (carik), Drawati 村に奪わる	A	58年?
71.	1920年10月12日	降灰 (1回目, Mērapī 山の大噴火による)	C	61年2月
72.	1920年4月	小学校 (polohsul) 開校	B	61年8月
73.	1919年7月	Cimarémé 事件	C	62年5月
74.	1918年?	Jayadikarta 氏, 村長となる (H. Saléh 村長やめる)	A	63年?
75.	?	Cilodong 部落大火	A	65年?
76.	?	Salasih 山の聖地で地すべり	A	66年?
77.	1913年?	H. Saléh 氏, 村長となる (H. Amir 村長やめる)	A	68年?
78.	?	H. Amir 氏, 村長となる	A	75年?
79.	1901年5月22-23日	Kēlud 山大噴火	C	80年7月
80.	1894年10月18-19日	Galunggung 山, 最後の大噴火	C	87年2月
81.	1884年8月26-28日	Krakatau 山大噴火	C	97年4月

* 出来事欄で使われる“はじめて”という表現は、それがサラムンカル部落でははじめてのことであつたという意味である。

** A：村人あるいは役場の職員の記憶のみによる。

B：村人、役場、学校などが保存する何らかの記録による。

C：書籍、論文、新聞などによる（ただし、参考にした書籍類のリストは割愛する）。

*** 1981年12月現在。

である。ある出来事が広く村人に知られているのか、あるいはインフォーマントとなった人物のみがたまたま知っていたのかを事前にチェックすることはむずかしいから、できるだけ多くの村人から、できるだけ多くの出来事を採集しておく方が安全である。過去の出来事を村人から採集する過程では、村人自身が国家的事件を述べることはほとんどないため、村人に広く知られていると予想されるいくつかの国家的事件を付け加えることにより、1年ないし2年きざみで出来事を並べられるほどの数が集まるまで、聞き込みを行う必要がある。Kirk [1975]は、Ga族で行なった出来事法による年齢推定は満足すべき結果を生まなかったとし、その第1の理由として、ほぼ等間隔で発生した十分な数の出来事を集め得なかったことをあげている。発生年がほぼ等間隔の出来事を数多く採集できるかどうか、出来事法による年齢推定の成否をきめる一つの鍵となるが、筆者の作成した出来事表(表2)は、この条件を、とりわけオランダ時代(1942年以前)において満たしているとはいえない。

出来事表を作成する過程での最大の困難は、事件の生じた年の推定・確認作業である。国家的な事件あるいは大規模な自然現象は、一般の出版物によってその発生年を知ることができるが(これらの出来事を表2においてCに分類した)、部落ないし行政村レベル、あるいは数カ村にまたがる程度の局地的出来事の大部分は、村人の記憶から発生年を推定するほかはない。¹⁵⁾

局地的出来事の発生年の推定は、①すでに発生年の判明している出来事との時間的前後関係を確認して、およその幅を知り(たとえば、1945年から1949年の間、というように)、

15) たとえば、チグントゥール村の歴代村長の就任年を記録したものさえ存在しない。

次に②自己の生年月日の記録を有する村人に、¹⁶⁾ 事件当時の記憶をたずね(たとえば、小学校の何年生であったか、など)、これから逆算して当該事件の発生年の幅を狭める、という手続を、少なくともふたり以上の村人について独立に行い、結果が一致したものを採用する、という方法で行なった。この後半の手続は、いうまでもなく、出来事法による年齢推定の逆利用である。

以上の手続は、もっぱら村人の記憶に頼るため、2件以上の事件の時間的前後関係がインフォーマントにより一致しなかったり、当時の村長の名前さえ異なる、といった多くの不一致に悩まされる。筆者は、過去の記憶の正確度を、①村行政の経験者など、当時何らかの役職に就いていた人、あるいは村人によって記憶力にすぐれているとみなされている人物に対して、②ある期間(たとえば数週間)をおいて再び同様な質問を行い、その答が同じであること、かつ、③他の事件との前後の脈絡をよく記憶しているか、何らかの根拠(たとえば、“私が教師として村の学校に赴任したのは1961年7月1日で、ちょうど翌年の乾季に例の事件が起こった”，などのように)があげられていること、などを基準に記憶のランク付けを行い、もっとも蓋然性の高いものを採用した。この手続は、インフォーマントとしての適格者さがしから始める必要があり、近隣の部落はいうまでもなく、ときにはチグントゥール村外にまで出向くことも必要であった(以上の手続により発生年の推定・確認作業を行い得たものを表2でAに分類し、推定発生年には一律に?を付してある)。

以上のような手続を行なってもなお、発生年の推定が困難であった例も少なくない。た

16) 何らかの形で生年月日の記録が存在しているとしても、その記録は実際の生年月日とは異なるが、その差は申告年齢にもとづくものよりはましであると筆者は予想している。

たとえば、40ないし50歳以上の村人の多くが知っていると予想される、Siti という名の老女の首つり自殺事件（Kajadian Siti Gantung といわれる）は、その例である。また、天然痘は現在でも毎年少数の患者が発生するが、その大流行の年は比較的最近の出来事であるらしいにもかかわらず、おそらくインフォーマントが自分ないし自分の子供が罹患した年を大流行の年と述べる傾向があるらしく、発生年の確定は不可能であった。

局地的な出来事のうち、村人が保存していた何らかの記録から発生年の確認ができたものもある（これを表2ではBとして分類）。依拠した記録は、そのほとんどが辞令（surat keputusan）で、少数ながら、ある特定人物の卒業証書（sertipikat または ijasah）、土地証文（ségěl）などからも、発生年確認に必要な間接的情報を得ることができた。しかし、このような方法で発生年が確認できた例は非常に少なく、1例を除くと、¹⁷⁾ いずれも最近15年以内に生じた出来事である。¹⁸⁾ 以上のように、発生年確認の手段は三つに分類す

ることができるが、このうち、Cに分類されるものが正確度において優り、Aに属するものがもっとも劣るというようにランク付けをすることができる。

T. H. Hull [1976a] は、国家的ないし広域的な出来事と局地的な出来事とを、それぞれ別の表にしておくことをすすめている。しかしサラムンカル部落の場合、多くの村人、とりわけ女は外界での出来事に無関心であり、たとえば前大統領、現大統領の名前すら知らないのが普通であるから、9.30事件やスカルノ前大統領の逝去を、出来事として用いることはほとんど意味がない。一方、同じ国家的出来事である総選挙は、それが総選挙（pēmilu）であったかどうかを村人が知らなくても、投票を行なったという事実は、その体験者ならば記憶している。¹⁹⁾ いま一つ例をあげると、有名な「バンドン火の海事件」（Pēristiwa Lautan Api Bandung）は、このままの表現を用いる限り、多くの村人は知らないと答える。しかし、バンドンから多くの避難民がサラムンカル部落へやってきた事件、と説明すれば、およそ40歳以上の村人の多くは思い出してくれる。いうまでもなく、ある出来事が村人の記憶に残っているかどうかは、それが国家的ないし広域的なものか局地的なものかの違いによるのではなく、村人とのかわりが直接的にあったかどうかによるのである。

照準となる出来事の選択とともに重要なのは、その出来事を村人が言及する際に用いる表現・通称を調べておくことである。1962年（4月ごろから6月ごろまでらしい）の「Dar'ul Islam 討伐作戦」と1967年（11月ごろから翌年1月ごろまで）の「飢饉」は、村人がもっとも頻繁に照準として言及する出来

- 17) この例外は、チグントゥール村にはじめて3年制の小学校（polohsul）が開設された年である。これは、81年調査時に約70歳（推定）の老人が保存していた卒業証書から卒業年次（1923年4月）が判明し、この老人が第1回生であったという記憶から、学校開設を1920年4月と推定できた。
- 18) 村人の保存する何らかの書かれた記録から局地的事件の発生年を確認する作業は、当初の予想よりはるかに困難であった。というのは、Dar'ul Islam の活躍時代（この時期を村人は Jaman Gērombolan とよぶ）、Dar'ul Islam のゲリラと、これを討伐する政府軍兵士との双方により、多くの家が放火されたこと、また幸い火災をまぬがれた家でも、この時期の疎開による混乱で、記録を紛失した村人が多いためである。なお、ジャワ人の村落では村人が重要な出来事の生じた年月日を自分の家の壁、柱、扉などに書き付けておくことがあるというが[V. J. Hull 1975: 34]、サラムンカル部落ではこのような例をみつけ出すことができなかった。

- 19) 村役人のひとりによれば、選挙権は18歳以上の者、およびこの年齢に達しない既婚者に与えられるという。

事であるが、それぞれ、Jaman Pagër Bitis (臍^{すね}で柵を築いたころ)²⁰⁾ Jaman Gabëng (キャッサバの残り滓^{かす}を食べたころ)²¹⁾と表現され、これ以外の表現を用いてこの出来事を村人に思い出させるのは非常に困難である。以上に述べた手続が、年齢推定作業開始以前の準備期間に行われた作業のあらましである。²²⁾

さて、出来事表ができると、これを片手に年齢推定のインタビューを開始する。この手順は、誰が行なっても同じ結果が得られるように標準化されている必要があると筆者は考えるが、しかし、出来事法が広く使用されている割には、この手順を記載している報告は少ない。筆者が行なったインタビューは、この手順を比較的詳細に述べている Scott *et al.* [1970] に準拠している。その概要は以下のようである。

まず、年齢を推定される対象となる者の申

20) この事件が起きた背景、および Pagër Bitis という通称については Jackson [1980: 18] に詳しい。

21) 1967年の乾季作米は大変な不作で、しかもこの年は雨季開始が異常に遅れたことにより畑作物の植付けが不可能であったため、不作の乾季作米はむろん、前年の雨季開始時に植え付けたキャッサバも食べ尽くしてしまった村人は、比較的被害の軽かったガルト方面に出稼ぎに行き、そこで労賃として得たわずかなばかりの米を、キャッサバから澱粉をとりさった残り滓(これをgabëng という)と交換し、主食がわりにしたという。なお、サラムンカル部落における農耕暦については Igarashi [1981], 五十嵐 [1981 b] を参照。

22) 表2に載せた出来事は、最後の三つ(Këlund 山, Galunggung 山, Krakatau 山の大噴火)を除くと、すべて、この準備段階において、少なくともひとり以上のインフォーマントが体験しているものである。上記三つの出来事は最高年齢者をチェックする目的で付け加えられたが、年齢推定作業終了時までこれらのいずれかを体験した者はひとりも現われなかった。なお、本稿執筆中の1982年4月5日早朝、Galunggung 山が約90年ぶりに大噴火を起こし、大量の灰を降らせた。

告年齢(本人または親などによる)、ないしその人物を観察したときの筆者の印象にもとづく予想年齢から、5ないし6歳を差し引いた年数²³⁾だけ調査時現在からさかのぼることに発生した出来事を、応答者(「年齢を推定される対象となる者」と、この「応答者」は同一の場合も異なる場合もある)²⁴⁾が記憶しているかどうかたずねる。応答者が、覚えていない、あるいは知らないと答えた場合は、出発点となった出来事から新しい方へ数年(ときには古い方へ数年)の範囲から、応答者が記憶する出来事をさがし出す。応答者が覚えていると述べる出来事がみつかったら、さらにその前後数年に生じた出来事についても同様にたずね、もっとも古い記憶、その次に古い記憶、……というように並べて記載する。このとき、応答者が記憶するという出来事を、応答者自身が実際にみたり体験したのか、それとも事件発生後何年かたってから人づてに聞いて知るに到ったのかの確認をしておく必要がある。²⁵⁾

23) ここで5ないし6歳を差し引くのは、ある個人のもっとも古い記憶は5-6歳ごろの記憶であろう、という予想にもとづく。

24) 応答者以外の人物の年齢を推定する場合とは、そのほとんどが母親を応答者として、その実子の年齢(ないし妊娠歴)を推定する場合である。このほか少数ながら、高齢によりボケていたり、耳が遠いため、本人との会話が成立しない場合、応答者が筆者の間に答えたがらない場合、明らかに虚の応答ばかりする場合などが含まれる。また必要に応じて、すでに故人となった人物、あるいは他地へ移出した者の年齢推定を行う場合も、この例である。

25) 出来事の発生年を確認する過程でしばしば体験したことであるが、発生年があらかじめ書籍などからわかっているもの、たとえば1928年の「青年の誓い」を、インフォーマントの記憶力のチェックのためにたずねてみたところ、一様に実際の発生年を下った年代(たとえば1940年代)の出来事と考えているらしいことがわかった。このように、中央での出来事を村人が記憶している場合でも、当時の交通ないし通信事情などから、村人の耳へ入るまでかなりの年月を経る場合もあることを留意しておく必要がある。

次に、それぞれの事件が発生した当時、年齢を推定される対象となる者が“どのようであったか”，具体的には、たとえば、生れていたかどうか、ハイハイができるようになっていたかどうか、簡単な仕事の手伝いができるようになっていたかどうか、学校の何年生であったか（これを Scott *et al.* [1970] の用語に従って private event と称する）²⁶⁾をたずねる。そして、事件発生当時の private event の性質から、もっとも蓋然性の高い年齢を仮定し、これに当該事件の発生年から現在年までの経過時間（年単位）を加算することにより、応答者の記憶する出来事の数だけ、年齢の推定値を得ることができる。

以上に概要を述べた手順のうち、年齢推定の精度を大きく左右する要素の一つは、どのような private event を用いるかであろう。いうまでもなく利用する private event は、仮定し得る年齢幅の狭いものほどよい。このため、筆者は、あらかじめ試行を行なって、当時“どのようであったか”を村人が何に注目し、どのように表現するかのリストを作成し、このうちから、仮定し得る年齢幅の比較的狭いものを選び出しておき、実際のインタビューに当たっては、該当する表現を応答者が述べるような出来事をみつけ出す努力を行なった。

筆者が実際に用いた private event のうち、そのいくつかと、それぞれに対応する年齢の仮定値を表3に示す。この表にかかげた private event のうち、発達に関するもの（3～12, 22）は、Gomez [1967: 317-319, 368], Kirk *et al.* [1976], 上田 [1980: 81] などを

26) Scott *et al.* [1970] は“private event”のほか“activity”という表現も用いている。これは T. H. Hull [1976a] のいう“life cycle event”に相当する。なお、Scott *et al.* は“private event”と対照的に“public event”という用語を用いているが、これは本稿でこれまで使用してきた「出来事」ないし「事件」に相当する。

参考とし、労働への参加度（14, 23～24）、結婚時期に関するもの（25～29）は、79年調査にもとづいて [五十嵐 1981b], もっとも蓋然性の高い年齢を仮定してある。²⁷⁾

ある private event とある年齢を1対1に対応させること自身が問題を含み、出来事法による年齢推定の弱点と考えるが、中でも表3でもっとも問題となるのは小学校の学年と年齢との関係（15～21）であろう。

一般に、母親は自己の乳幼児の年齢（ないし月齢）を正確に数えるが、子供が学齢期に近づくころからしだいにあやふやになってくる。少なくとも満年齢方式による年齢の数え方を知らない村人が、自分の子供が学齢期に達したと判断する根拠を「年齢」においているのか、それとも何か別の方法で判断しているのかは、筆者の79年調査時からの関心事であったが、およそ村人は以下に述べるいずれかの仕方で自己の子供の学齢期を知るらしい。

自己の子供が学齢期に達したと判断する伝統的方法は二つある。その一つは、乳歯の脱落に注目することで、筆者が子供の年齢を質問すると、即座に答えられない親が子供に向かって「何本歯が抜け落ちた？」（Munglak sabaraha?）とたずねることがある。1本抜け落ちると7歳になった（2本抜けたら7歳だ、という村人もいる）、というように、脱落した乳歯の本数と年齢との間には、彼らなりの対応表があるらしい。この対応関係を Ga 族と Kikuyu 族で調べた Kirk *et al.* [1976] によれば、最初の乳歯脱落后、後継の永久歯（下顎の中切歯）が萌出開始する年齢を、男では6½歳、女では5¾歳としているので、村人による上記の言質はかなりの妥

27) ただし、表3に示した年齢の仮定値は、調査遂行上、年齢の推定値をひととおり算出しておく必要があったために用いた暫定値であって、再考を要する。

表3 Private Event の例と年齢の仮定値

活動番号	private event (よく聞かれる表現)	およその意味	年齢の仮定値(歳)*
1	nuju dikandung 8 sasih	妊娠8カ月目	-0.1
2	němbé babar	出産したばかり	0.0
3	nuju nangkarak	自分では動けない状態	0.0
4	nuju nyangigir	横向きに動ける	0.1
5	nuju nangkuban	ハラバイになれる	0.2
6	nuju ngalangsud	タカバイができる	0.3
7	nuju ngorondang	ハイハイができる	0.4
8	nuju diuk	おすわりができる	0.5
9	nuju jungjungan	たっちができる	0.7
10	nuju léléngkah halu	1歩2歩あるける	0.9
11	němbé papah	じょうずにあるける	1.0
12	němbé lulumpatan	走れる	2.0
13	当時の子供の月齢		ママ
14	acan sakola, němbé/atos tiasa { kukumbah jingjing cai ngala suluh ngasuh rayi ngangon domba	学校はまだだが、 食器洗い 水汲み たきぎひろい 弟妹のおもり 羊の放牧	の手伝いができる 6
15~20	nuju sakola kénéh	在学中	
15	kēlas 1	1年生	7
16	kēlas 2	2年生	8
17	kēlas 3	3年生	9
18	kēlas 4	4年生	10
19	kēlas 5	5年生	11
20	kēlas 6	6年生	12
21	němbé tamat sakola	卒業したばかり	13
22	munglak němbé hiji	乳歯が1本脱落したばかり	7
23	tiasa nanggung 20kg (男のみ)	20キロは担げる	10
24	tiasa macul (男のみ)	田起しができる	15
25	němbé bēgér (němbé bobogohan)	異性に興味をもち始める	15(女), 18(男)
26	badé nikah (女のみ)	年ごろ	15
27	němbé nikah	初婚をしたばかり	15(女), 20(男)
28	němbé gaduh budak hiji	最初の子ができたばかり	17(女), 20(男)
29	němbé gaduh incu hiji	最初の孫ができたばかり	34

* 暫定値 (注27参照)。

** “まだ orok (赤子) だった” という応答のあったとき、さらに詳しくたずねるためのもの。

当性をもつ。

もう一つは、片手を頭上から反対側の耳へ伸ばし、指先が耳介の上端につけば学齢期に達したと判断する方法である。村人によると、

オランダ時代から独立後もしばらく、学校長みずからが子供たちに命じてこのしぐさをさせ、指先が反対側の耳介についた子供に入学許可を与えるという選抜方式をとっていたと

表4 学年別年齢分布*

学 年	年 齢 別 学 童 数										計(人)
	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	
1年生	4(2)	<u>47(24)</u>	<u>38(20)</u>	11(5)	1(0)	—	—	—	—	—	101(51)
2年生	—	1(0)	<u>46(19)</u>	<u>27(12)</u>	12(6)	3(1)	—	—	—	—	89(38)
3年生	—	—	5(2)	<u>43(23)</u>	<u>28(15)</u>	9(6)	5(3)	3(1)	1(0)	—	94(50)
4年生	—	—	—	1(0)	2(2)	<u>44(18)</u>	<u>19(12)</u>	6(2)	2(0)	—	74(34)
5年生	—	—	—	—	—	5(3)	<u>26(13)</u>	<u>26(9)</u>	6(4)	—	63(29)
6年生	—	—	—	—	—	—	5(1)	<u>22(7)</u>	<u>11(1)</u>	4(2)	42(11)

* チグントゥール村第4小学校と Inprés 小学校における1981年9月現在の在籍学童の男女合計を示す(カッコ内は女子数)。アンダーラインはもっとも頻度の多い年齢を示す。資料は、それぞれの小学校の校長のひかえによる。

いう。筆者が試みに子供たちにさせるのをながめていた母親たちの多くも、それとすぐわかるほど、この方法は村人によく知られている。無作為にいく人かの子供たちに行なってみた結果では、最高2年生にまで指先のつかない子供がいる一方で、入学以前の子供にも、すでに指先を反対側の耳介につけることのできる者がみられた。

もとより、多くの村人が、以上のような仕方、子供が学齢期に達したかどうかを判断しているのではなく、むしろ、自分の子供と同年輩の子供たちが学校に通い始めるのをみて、自分の子供を学校に入れる方が普通らしい。しかし同時に、同年輩であるにもかかわらず、隣家の女の子はすでに2年生であるのに、あなたの子供(男)はなぜまだ学校に入っていないのか、とたずねた筆者に対して、男の子は発育が遅いから(Pamëgët mah koré)、来年学校に入れます、と答えた母親もいるように、村人はこの年齢期の男女の発育の違いをよく承知しており、自分の子供が十分学校に通えるほど成長したと判断してはじめて通学させる親も少なくないらしい。

以上までに述べてきたことから明らかなように、入学時における年齢はかなりの幅をもつことを予想しなければならないし、昇級で

きない落第生がいるため、各学年の年齢幅はさらに広くなると考えてよい。サラムンカル部落の子供たちが通学する、二つの小学校に在籍する学童の学年別年齢分布は、表4にみるように、年齢幅の小さな学年でも4歳、大きい学年では7歳の幅を有する。²⁸⁾同一学年に在籍する学童の年齢幅が広いことは、年齢推定の正確度を減じる要素となる。しかし、当時何年生であったかは応答者がもっとも頻繁に言及する private event であること、また、表4にみるように、各学年とも頻度の多い年齢に注目すると、その幅はせいぜい2歳であることなどにより、在学年次はもっとも

28) 入学時には宗務係の発行する出生証明書(surat tanda lahir)をもってくることが要求される。表4の年齢が依拠しているのは、この出生証明書に記載されている生年月日である(なお、注16参照)。V. J. Hull [1975: 63] が信頼できるとしている出生証明書は、チグントゥール村の場合、1978年1月以降しかそのオリジナルが残されていないため、学校保存の生徒名簿ないし卒業生名簿を利用せざるを得ない。なお、学校の教師によれば、小学校に在学できるのは7歳から17歳までで、6歳の子供を親が連れてきても原則として入学をことわるといふ。しかし、小学校の教師でさえ、満年齢方式で計算しないため(すなわち、現在年から出生年を差し引いた残りを年齢とするため)、出生証明書による出生年月日が正しい場合、満6歳の子供が入学する可能性はある。

重要な private event として利用せざるを得ない。なお、学年と年齢との関係をより蓋然性の高いものにするため、あらかじめ落第経験の回数について問いたしておき、落第経験者には経験回数分だけの年数を、当該学年に対応する年齢の仮定値に上乘せするという手段もとった。²⁹⁾

以上までに概要を述べてきた出来事法による年齢推定の作業は、応答者の過去の記憶に頼るため、記憶違い、忘却、さらに虚偽の応答などによる不可抗力の誤りを避けることができない。筆者はこのような誤りを見出すため、以下に述べる三つの方法で、得られた推定年齢の信頼性のチェックを行なった。

第1は、応答者のもっとも古い記憶に属する出来事³⁰⁾を複数見出し、それぞれの出来事に対応する private event から得られる推定年齢が、十分納得できるほど一致するかどうかをみる方法である。著者は、Scott *et al.* [1970] のすすめに従い、応答者のもっとも古い記憶に属する出来事を少なくとも三つ見出すことを目標とした。

第2は、出来事法による年齢推定の手続を本人とその親（とりわけ母親）を応答者としてそれぞれ独立に行い、得られた推定年齢の一致度をみる方法である。ただし、この方法は、親がサラムンカル部落に現存し、しかもボケていない場合に限られるが、この場合でも筆者がインタビューをする場に、しばしば親と子が同時に在席するため、独立にインタビューを行えないという困難に出会う。

以上に述べた二つの方法のうち、第1の方法では、適当な出来事を複数みつけ出すことが不可能な場合も少なくなく、また第2の方

法には上述の難点があるため、いずれもかなり限られた者にしか適用できない。これら二つの方法よりさらに多くの人々に使える第3の方法として、次節に述べるように、「年齢を推定される人物」と同年輩の者、少し歳上の者、および少し歳下の者の名前をそれぞれサラムンカル部落に現住する者の中からいく人かあげてもらい、これらの者に対しても出来事法を適用して、年齢の相対的上下関係が矛盾なく一致するかどうかを検討する手段をとった。

2) 相対的な年齢の上下関係を利用する方法

村人が相互に認知している歳上、歳下、あるいは同年輩の関係を調べておき、これを順次並べて、推定年齢を得る方法を、ここでは「先輩後輩法」と仮称しよう。Carroll [1975: 491] や Howell [1979: 25-26] もいうように、一般に無文字社会の人々は自己と他者の相対的な年齢関係をよく承知しているといわれる。しかし、筆者の経験によれば、スンダ人の農村社会においてはそれほど厳密なものではなく、したがって先輩後輩法の適用はいくつかの困難に遭遇する。

まず問題となるのは、年齢の上下関係の認識が実年齢とどの程度相関しているかである。筆者は村人ひとりひとりに、同年輩の人（および少し歳上・歳下の人）はたとえば誰か、という質問を繰り返したただけであるが、応答者の中には、年齢の相対関係を判断した“根拠”を述べる者がいた。村人のあげた“根拠”の多くは、以下のいずれかに属する。その第1は、学校時代、自分とあの人とは同学年だったから、あるいは何学年違ったから、というケースである。³¹⁾第2は、自分が結婚して最初の子供ができたときも、あの人はお未婚だったからという類で、まったく学校に

29) 落第する学童の割合は学年により異なるが、1年生でもっとも多く、約18%である。

30) 古い記憶を採用する理由は、それが古いほど記憶違いの危険性を有するが、しかし同時に、対応する年齢の仮定値と実年齢の差の絶対値が小さいという利点にもとづく。

31) 同学年ではあったが、自分はずいぶん大きくなって（たとえば、田起しの手伝いができるよう

通わなかった者の応答によく聞かれるタイプである。このように相対年齢の判断の“根拠”にも、自己の記憶に残る event に依存する傾向をみることができる。したがって、村人によって同年輩と判断された二者間には、実際にはかなりの年齢差がある場合を予想しなければならない。

第2に問題となるのは、相対的な年齢を互いに知る人々の範囲である。村人に適切な表現³²⁾でたずねる限り、応答者はたちどころにいく人かの名前をあげてくれる。しかし名前のあがる人物は、ほとんど常にごく近隣に住む者たちでしかない。Dobe 地域に住む !Kung に先輩後輩法を適用した Howell [1979: 27] によると、同じ地域に住む者たちでも、ともに暮らしたことのない者どうしは、年齢の上下関係を多くの場合知らないというが、サラムンカル部落においても事情は同様で、つい目と鼻の先にある集落(lëmbur)で、相互に顔見知りの間がらであり、通婚関係も緊密であるにもかかわらず、血縁関係にある者どうし、同級生であった者どうしなどを除くと、多くの場合、相対年齢の認識はあやふやである。したがって当然のことながら、他所生まれの婚入者は、同年輩者の名前をあげるように依頼すると、「ここには居ない」

になって) 入学したから、自分の方が歳上だ、という“根拠”付けをした者も少数いるが、これらはすべてオランダ時代の3年制の下級学校(polohsul)、ないし上級学校(përpolah)の入学経験者であった(polohsul, përpolah はそれぞれオランダ語の volksschool, vervolg のスンダ訛と思われる)。このことから、オランダ時代に学校体験をもつ年長者に関しては、入学時年齢の假定値を、表3に示した値よりかなりふやす必要があるかもしれないと考えている。

- 32) サラムンカル部落では同年輩の者を、pakokolot supa (同じぐらい老いた茸), sësama (同等の人)、ときには sarua (同じ種類) とよび、自己より少し歳上・歳下の者をそれぞれ saluhureun (少し上), sahandapeun (少し下) と表現する。

と答えるか、あるいは、きわめて自信なげに近隣住民の名前をあげるか、のどちらかである。

以上のように、村人の知る相対年齢に関する認識は、村人なりの“年齢推定”(すなわち、event 依存的推定)にもとづいているのであって、けっして、Carroll [1975: 491] がポリネシアやミクロネシアの人々についていうように、出生順位を知っていて、これにもとづいて判断しているのではない。しかし、以上とは別に、母親にその実子の同年輩(および少し歳上・歳下)の者をたずねる場合には、事情が異なる。母親は、自分の子供と近隣に住むほぼ同年齢の子供たちとの出生順位をこまかく記憶しており、これにもとづいて相対年齢の判断を行うからである。ただし、この場合でも、母親が出生順位を確実に記憶しているのは、ごく近隣の子供たちだけであり、また、出産時前後を他所ですごした母親の述べる自分の子供と近隣の子供たちの相対年齢は、しばしば信頼性に欠ける。

以上までに述べてきた理由から、先輩後輩法は限られた場面でのみ利用価値をもつと考えられる。筆者がこの方法を用いるのは、以下のいずれかの場合である。第1に、前節で述べた出来事法により得られた推定年齢の妥当性についてチェックする場合である。すなわち、推定年齢の得られた人物と同年輩(および少し歳上・歳下)の者をいく人かあげてもらい、同様な手続で得られるこれら名前のあがった人々の推定年齢と照合し、矛盾がなければ、推定結果を採用し、矛盾があれば保留する。

第2の場合は、先輩後輩法が、対象者の年齢、非協力などによって、うまく適用できない場合である。とくに老人については、幼少時の記憶を引き出すことがむずかしいこと、記憶が引き出せたとしても適当な private event を述べることが少ないこと、幼少時

(すなわちオランダ時代)の出来事は発生年推定の正確度が低いことなどの理由から、55-60歳以上と予想されるすべての老人については、³³⁾ 相互の歳上・歳下関係を網羅的にたずね、年齢推定の補助資料とした。これらの老人のうち、幸いに出来事法がうまく適用できたり、別の資料から確度の高い年齢の推定値が得られている者が数名いるため、他の老人たちについても、実年齢が存在すると思われる年齢幅(62歳から65歳の間、というように)を設定することができる。ただし、確度の高い年齢推定値の得られている老人の最高年齢者は、70歳を少し上回るぐらいなので、この老人より高齢の者についての推定値は、さらに粗いものとなる。

3) 伝統的な暦を使う方法

前節までに述べてきた二つの年齢推定方法は、いずれも相当うまく適用できた場合でも、乳幼児を除くと、対象者の年齢を1歳きざみで推定できるほどの精度をもたないが、ここで述べる方法は、前二者の方法と併用すれば、原理的には、ある個人についての生年月日を特定できる可能性をもつ [T. H. Hull 1976b : 2-3]。しかし、あとにも述べるように、この方法は前二者の方法よりもさらに難点が多いと考えられる。以下でこの方法の原理に触れ、つづいてその難点について述べよう。

現在ジャワ島の伝統的社会で用いられている暦法は、ジャワ、ヒンドゥー、イスラムなどに由来するものが混在し、年、月、週、日付、曜日など、それぞれいく種類かが存在する

33) 標本世帯に属するすべての老人(79年調査時以降に故人となった者数名を含む)および村人がしばしば“長老”として引合いに出す近隣部落に居住する老人数名の計63名である。このぐらいの数でも、年齢の上下関係を、Aに対してBとの関係をたずね、かつBに対してもAとの関係をたずねて確認するという方式をとると、その作業はかなりの時間を必要とする。

[Soebardi 1965; Sukanda-Tessier 1977]。しかし、普通のスンダ農民が、誕生日などある特定の日を伝達ないし記憶する際に、要素として用いるのは、せいぜい①月(bulan),³⁴⁾ ②日付(tanggal),³⁵⁾ ③7日を1週間とする曜日(poé),³⁶⁾ ④5日を1週間とする曜日(poé pasaran),³⁷⁾ および⑤時刻(jam)³⁸⁾ ぐらいで、基本的にはイスラム暦に準拠している。年については、多くの場合、語られもせず、したがって記憶もされない。正にこの事実が、村人の年齢を容易に知り得ない最大の理由で、もし村人に、イスラム紀元、ジャワ紀元、ないし8年を1週期とする年名(windu)など、何らかの方式により年を数える習慣があれば、当該年月日をグレゴリー暦に換算することは容易である。³⁹⁾

しかし、幸いなことに、上記①から④までの各要素のすべてが同一となる日は、数年に1度の割で不定期に回ってくるから、ある個人について、およその年齢、ないし年齢幅(ただし数年以内)が、出来事法その他によりすでに判明しており、さらにその個人の出生日について上記各要素が得られれば、グレゴ

34) 1年は12カ月からなる。各月の名称は, Muha-ram, Sapar, Mulud, Silih Mulud, Jumadil Awal, Jumadil Ahir, Rajab, Rēwah, Puasa, Sawal, Hapit, Rayagung.

35) 奇数月は30日, 偶数月は29日からなる。ただし Puasa 月(第9月)は開始が1日遅れる(したがって Rēwah 月が30日, Puasa 月が29日となる)こともある。また閏年は Rayagung 月(第12月)が30日となる。

36) Sēnén, Salasa, Rēbo, Kēmis, Juma'ah, Sabtu, Ahad.

37) Manis, Pahing, Pon, Wagé, Kaliwon.

38) 1日を二つに分け、それぞれを12等分するわれわれの仕方と同一。

39) 村人がイスラム紀元, ジャワ紀元, ないし windu を口にするのを筆者は1度も聞いたことがない。年が語られるときは(それもしばしば誤っているが), きまって西暦紀元が用いられる。村人が日常用いるイスラム暦による新しい年の開始は, グレゴリー暦のそれとは一致しないにもかかわらず, なぜ年だけは西暦紀元を用いるのか, 筆者は不思議に思っている。

表5 子供の出生日の3要素 (poé, tanggal, bulan) に関する親の記憶度

一致・不一致の内容	例数	備考
3要素 (poé, tanggal, bulan) ともすべて一致	6	
tanggal のみ一致せず	7	81年調査時に, tanggal を忘れた, と答えたものを1例含む
tanggal と bulan がともに一致せず	6	81年調査時に, tanggal および bulan をいずれも忘れた, と答えたもの2例を含む*
bulan のみ一致せず	2	
3要素 (poé, tanggal, bulan) ともすべて一致せず	1	この例は tanggal および bulan を忘れ, poé は答えたが79年調査時のそれと一致しなかった例**
合計	22	

* このうち1例は1979-1981年の間に当該の子供が死亡。

** これも死亡例である。

poé の一致・不一致		tanggal の一致・不一致		bulan の一致・不一致	
一致	21	一致	8	一致	13
不一致	1	不一致	14	不一致	9
計	22	計	22	計	22

リー暦上に出生年月日を特定することができる。すなわち、イスラム暦とグレゴリー暦の対照表⁴⁰⁾をくって、上記4要素のすべてが同一となる日を、当該個人が出生したと予想される前後数年の中からみつけ出し、その日がグレゴリー暦の何年何月何日に当たるかを見出せばよい。

ところで、どのぐらいの村人が、どの程度正確に、自己の(あるいは、子供の)出生日について、これらの要素を記憶しているかが、この方法による年齢推定の鍵となる。上記4要素のうち、自分ないし自分の子供が生れた日の7曜日(③)は非常によく記憶されている。ところが、月(①)、日付(②)になると、この順に、“忘れた”、“知らない”と答える者が出現し、さらに5曜日(④)になると

記憶度合いは一層悪く、答える者がいるにしても、男なら Kaliwon, 女なら Manis というような選好傾向があるため、その答はあまり信用できないと筆者は考えている。⁴¹⁾しかしグレゴリー暦上に、ある特定日を見出す作業は、原理的には、上記要素のうち①②③がそろえば可能で、5曜日(④)は必要ではない(以下、7曜日を単に曜日と記す)。したがって、この方法で出生年月日を特定できるかどうかは、上述3要素についての記憶の確かさしだいとなる。

79年調査時において、親が述べた子供の誕生日を筆者が偶然書き留めておいた例が22例ある。これら22例はいずれも生後数カ月から3歳程度までの乳幼児であるが、81年調査時

40) 筆者が利用した対照表は ENI [1927], Moerthiko [1979] などである。T. H. Hull [1976b] は、イスラム暦とグレゴリー暦の対応を示していない。なお、後二者は非常に多くの印刷ミスがあるので、利用に際しては十分な注意が必要である。

41) ある個人が出生した日の曜日をとくに wédal と称するが、ある村人によれば、本来 wédal は2種類の曜日 (poé と poé pasaran) を組み合わせ (たとえば Juma'ah-Manis のように) 覚えるものだという。しかし実際には、村人に、あなたの wédal は何か、とたずねても、7曜日 (poé) のみを答えるだけである。

に再度この子供たちの出生日をたずねたと
ころ、両時点に得られた月、日付、曜日のい
ずれもが一致した例は、30%に満たない6例
のみであった(表5)。ただし、79年調査時の
応答者はほとんどが世帯主(したがって多く
は父親)であるから、もし母親にたずねてい
たら、一致するものの例数はさらに多くなっ
たかもしれない。⁴²⁾

以上のように、出生日に関する記憶度は、筆
者が当初予想したよりはるかに悪いが、記憶
が確からしいと認められる場合でも、出生日
をグレゴリー暦上にみつけ出せないことがあ
る。このようなケースが生じるのは、以下に
述べるように、少なくとも二つの理由に由来
すると考えられる。その一つは、1日の伝統
的な分割習慣にかかわるものである。午後6
時ごろに行われる日没時の礼拝(magrib)が
すぎると、peuting(夜)とよばれる時間帯
に移るが、同時に村人は曜日を1日繰りさげ
る。たとえば peuting Rēbo(水曜の夜)は
われわれのいう「火曜の夜」に相当するが、
しばしば peuting は省かれ Rēbo(水曜)と
のみいわれる。おもしろいことに、このとき
同時に日付を1日繰りさげることはしないら
しい。⁴³⁾ このような習慣により、日没時から
夜半までに生れた者の出生日は、前記3要素
のうち曜日だけが1日繰りさがって記憶され
ている。これを見出すためには、出生時の時
刻(前述の要素⑤)がわかっていればよい。
一般に出生時刻は非常によく記憶されている
ので、この作業は容易である。たとえば、表
6に示す例では、出生時刻が午後8時である
から、曜日を1日繰りあげて木曜日とし、調

表6 母親の述べた子供の出生月、日付、曜
日、時刻、および歳(月齢)の例

要 素	母 親 の 記 憶
月	Jumadil Awal 月(第5月)
日 付	3 日
曜 日	金曜日
時 刻	夜 8 時
歳(月齢)	20カ月(ただし1981年11月現在)

査時から調査時現在年齢(母親による申告年
齢)だけさかのぼる近傍から、Jumadil Awal
月(第5月)3日木曜日となる組合せをさが
せば、1980年3月20日木曜日を見出すことが
できる。

出生日を特定できないもう一つの理由は、
イスラム暦とジャワ暦の混同に由来するらし
い。両者は、いずれも純粋な太陰暦であるが、
閏年のおき方が異なるため、日付が1日ない
し2日までずれることがある。日常生活にお
いて曜日には強い関心を示す村人も、日付に
はしばしば無頓着で、何か重要なことがある
とカレンダーをのぞき込み、その日が何日で
あるかを調べる。このとき、前後1~2週間ず
れた同じ曜日の日付を選び出すこともしばし
ばであるが、同時にイスラム暦ではなくジャ
ワ暦の日付を参照することも少なくない。⁴⁴⁾
実際の日付より前後に1~2週間ずれて記憶
されているものであれば、この記憶の利用価
値はまったくないが、イスラム暦とジャワ暦
を混同し、ジャワ暦による日付で記憶されて

42) 81年調査時の応答者は、1例を除くと、母親で
ある。筆者の経験によれば、多くの父親は自分
の子供の出生日に無頓着である。

43) 日付がいつ繰りさがるのかを筆者は確認してい
ないが、おそらく janari(夜半すぎより黎明ま
での時間帯)を境とするのであろう。

44) 多くのカレンダーにはイスラム暦とジャワ暦に
よる日付のいずれもが付記されているが、村人
はこの違いを知らない。カレンダーによっては、
イスラム暦による日付がアラビア文字で書かれ
ており、これを読めない村人は算用数字で書か
れているジャワ暦による日付を参照してしま
う。いずれにしても、日付への関心は低く、今
日何日であるかをあらかじめたずねておき、
手もちのカレンダーによる日付との違いを指摘
した筆者に対して、ある村人は、今日何日で
あるかより、重要なことは今日何曜日である
かということだ、と述べたほどである。

表7 Sapar 月（第2月）23日金曜日となる
グレゴリー暦上の日付の例

西暦紀元	月	日	poé pasaran (5曜による曜日)
1975年	3	月 7 日	Kaliwon
1968年	5	月 17 日	Kaliwon
1967年	6	月 2 日	Kaliwon
1959年	5	月 28 日	Kaliwon
1944年	2	月 18 日	Kaliwon
1939年	4	月 14 日	Wagé
1936年	5	月 15 日	Kaliwon
1931年	7	月 10 日	Wagé

いるものなら、ジャワ暦とグレゴリー暦の対照表をくればよい。イスラム暦上にうまく一致する日をさがし出せなかった場合のうち、かなりのものは、この方法でグレゴリー暦による生年月日を特定することができた。

伝統的な暦を用いる方法で、最後に問題となるのは、予想される出生年の前後数年以内に、月、日、曜日の3要素すべての一致する日が二つ以上存在し、そのいずれを出生日としてよいかの判断に迷う場合である。すでに述べたように、上記3要素が一致する日は数年間隔で不定期にめぐってくるが、ときにはその間隔が1年になることもある。たとえば、Sapar 月（第2月）23日金曜日となる日を、現在から1930年代までさかのぼってすべて書き出すと、表7のように、1967年と1968年につづいて出現し、しかも5曜日（poé pasaran）も同じ Kaliwon である。この場合、もし予想される出生年が1967-1968年とその近傍であるようなケースでは、そのいずれも（1968年5月17日と1967年6月2日）が、出生年月日の候補となり得る。このような事例に出会うのは比較的まれなことであるが、筆者はひとまず、いずれをも出生年月日として記録し、当該個人の母親の妊娠歴（流産・死産を含む）がすでにあり、かつ当該個人のすぐ上の兄姉ないしすぐ下の弟妹について出生年月日が特定されていれば、出生間隔を少な

くとも11カ月と仮定⁴⁵⁾することにより、いずれか一方を出生年月日として選び出すことにしている。

Ⅲ 2～3の例とまとめ

以上までに述べてきた年齢推定のプロセスと問題点は、どの対象者に対してもひとまずは考慮する必要があるという意味で、一般原則に近いものである。ところが、個々のケースについて複数得られる推定値からどれをもっとも妥当性の高いものとして採用するか、あるいは、年齢幅で得られた推定範囲をさらに可能な限り狭める、といった年齢推定作業の最終段階で、すでに得られている情報をどのように総合すべきか、さらに考慮されるべき追加的情報の性格はどのようなものであるか、といった点になると、ケースごとにすべて異なるといえるほど多様で、一般論を述べることがむずかしい。Scott *et al.* [1970] もいうように、年齢推定の一連の作業過程の中で、もっとも恣意的判断を行いがちなのは、この最終段階であろう。結論的にいえば、適切な追加的情報と妥当な総合判断を行なったとしても、本稿で述べた方法による限り、田中 [1980] が試みたように、対象者のすべてにもっとも妥当な推定年齢を1歳きざみで与えることは、とうてい不可能なことと考える。⁴⁶⁾ 以下に、年齢の推定例を2～3あげな

45) この仮定は、出産後40日目に行われる mahinum とよばれる儀式をもって、少なくともたてまえとしては、postpartum abstinence の期間が終了するためである。なお、スンダ人の postpartum abstinence の期間が、ジャワ人のそれにくらべて、非常に短いことが指摘されている [Singarimbun *et al.* 1974: 75-77; 1976]。

46) Howell [1979: 23-41] がモデル生命表を利用して行なった1歳きざみの個人年齢の推定方法について、筆者はいまのところ、これを評価する資格をもたない。

表8 年齢推定の例(その1)

既婚の女
 サラムンカル生まれ
 学歴：小学校卒
 申告年齢：19歳(79年), 21歳(81年)

応答者	記憶する出来事	事件番号*	発生年確認法*	経過年数*(1)	当時の private event	活動番号**	年齢の仮定値**(2)	推定年齢(1+2)
本人	飢 饉	27	B	14	1 年 生	15	7	21
	前大統領スカルノ逝去	24	C	11	4 年 生	18	10	21
	Sujana 氏, はじめてバイクを購入	17	A	6?	卒業したばかり	21	13	19
父親	3人の兵士(OPR), Dar'ul Islam により銃殺	42	A	22?	生れたばかり	2	0	22

* 表2による。

** 表3による。

がら,このような困難の一端を明示したい。⁴⁷⁾

表8に示す例は,一連の年齢推定作業を行った結果,自己の年齢を正確に認識していることが判明した女性の例で,79年調査時の本人による申告年齢は19歳,81年調査時のそれは21歳である。この表にみるように,3種類(19歳,21歳,22歳)の推定値が4個得られているが,本人を応答者として,二つの出来事(「飢饉」と「スカルノ逝去」)から得られた推定値がともに21歳となるのは,事件発生年と private event (それぞれ「当時1年生」,「4年生」)との間に consistency があるためで,これはこの女性の記憶の確かさを示すと一応は考えてよい。しかし同時に,前述のように,女の子の入学年齢は男の子のそれより早い場合があることを考えると,入学時年齢は満6歳,したがって調査時年齢は20歳とも考えられる。第3の出来事(「バイク購入」)は,発生年の確度が劣るうえ,これに対応する private event (「卒業したばかり」)は年齢を仮定しにくい例で,実は卒業後1年ないしそれ以上経過していたとすれば,調査時年齢は20歳ないしそれ以上となる。三つの

出来事から得られた3個の推定結果に対して,以上のように考えてみると,より妥当な値は20歳であろうと,推定結果を修正することができるかもしれない。

しかし,この修正値は,父親を応答者とし,第4の出来事から得られた推定結果とは,一致しない。そこで,第4の推定結果が若干の過大推定になっている可能性を考えてみると,第4の出来事(「兵士銃殺」)も,第3の出来事と同様,発生年の確度が劣ること,父親を応答者としているため,対応する private event (「生れたばかり」)は父親の記憶違いで,⁴⁸⁾実はせいぜい妊娠中か,あるいはそれ以前の段階であったかもしれない,したがって,22歳を少し下回る値がより妥当性をもつ,等等と考えることにより,妥当な値は上記修正推定(20歳)に近いものであろう,と考えることもできる。

以上までに事例として述べてきた種々の可能性の検討は,そのうちいくつかは当てい

47) 以下に示す例は,いずれも, private event に対応する年齢の仮定値として,暫定値を用いている(表3および注27参照)。

48) ある事件の発生当時,まだ妊娠中であったか,出産後であったか,出産後であったとすればどの発育段階(表3の3~12)であったか,などのこまかい点になると,父親の記憶は,母親のそれにくらべて,はるかに劣る。表8の例では,母親がすでに死亡していたため,やむなく父親を応答者としている。

表9 年齢推定の例(その2)

既婚の男
他所生まれ
学歴なし
申告年齢：45歳(79年)，50歳(81年)

応答者	記憶する出来事	事 番 号*	発生年 確認法*	経過年 数*(1)	当時の pri- vate event	活 動 番 号	年齢の仮 定値(2)	推定年齢(範 囲)(1+2)
本人	疫 病	63	A	45~47?	(知らない)	—	5歳以下	50-52歳以下?
	日本軍上陸	61	C	39	(覚えている)	—	6歳以上	45歳以上?
	熱病流行	60	A	39?	(覚えている)	—	6歳以上	45歳以上?
	降 灰	49	C	30	結婚して、もうこ とへ来ていた	—	20歳ごろ	50歳ぐらい?

* 表2による。

表10 年齢推定の例(その3)

既婚の女
他所生まれ
学 歴：小学校2年で中退
申告年齢：25歳(79年)，40歳(82年)

応答者	記憶する出来事	事 番 号*	発生年 確認法*	経過年 数*(1)	当時の pri- vate event	活 動 番 号	年齢の仮 定値(2)	推定年齢(範 囲)(1+2)
本人	降 灰	49	C	30	(覚えていない)	—	5歳以下	35歳以下?
	第1回総選挙	46	C	26	(投票せず)	—	15歳以下	41歳以下?
	Dar'ul Islam	39	C	19	(2度目の結婚)	—	16歳ごろ	35歳ぐらい?
	第2回総選挙	23	C	10	(5回目の結婚， 3度目の妊娠中)	—	25歳ごろ	35歳ぐらい?

* 表2による。

るかもしれない。しかし、種々の可能性のどこまでが妥当な判断か、どこからがごまかしかを最終的に確認することは不可能である。したがって、複数の推定結果の一つ一つについて、それが過大推定になっているか、あるいは過小推定になっているかの検討を積み重ね、全体を総合的に判断して最終的に一つの値(すなわち1歳きざみの年齢)をもっとも妥当な推定値とする操作は、他に決定的な情報のない限り、慎むべきであると筆者は考えている。幸い、表8に示す女性は、自己の出生日を，Sapar 月(第2月)23日金曜日 Kaliwon と記憶しており、複数のインタビューでこの記憶の正しいらしいことが確認されているので、1959年5月28日を出生日として特定することができ(表7参照)、81年調査時現在の満年齢が22歳という確度の高い推定値

を得ることができる。⁴⁹⁾

表9、表10に示す例は、いずれも推定作業のもっとも困難な例である。両者に共通していることは、どちらも他所生まれの婚入者で

49) この女性は出生年を1960年と記憶していたが、グレゴリー暦で何月何日かは記憶しておらず、試みにたずねた筆者に対して、ひかえをもち出し、同年9月21日であることを教えてくれた。この生年月日は、のちに学校の卒業生名簿からも確認されたが、筆者の推定による生年月日(1959年5月28日)が正しいとすれば、実際の誕生日より1年以上も経過した日付が登録上の出生年月日となっている。この女性が結婚(初婚)したのは81年調査開始後まもなくで、初婚年齢は推定満22歳である。非常に“晩婚”であったので、すべての同年輩者(女)はすでに79年調査時に予もちであったが、これら同年輩者たちによる自己の申告年齢(79年調査時において20歳ないし25歳と答えた)をチェックするうえで参照となる「重要人物」となった。

あるため、幼少時の記憶に残る出来事は筆者の作成した出来事表(表2)に載っていないこと、近隣の人々との年齢の上下関係を知らないこと、さらに自己の誕生日についても曜日(poé)以外は記憶していないことなどである。

サラムンカル部落に住む婚入者の多くは、もっとも生地が遠い者でも、せいぜい近隣の郡生まれである。したがって、出来事表から比較的広域的なものを選び出し、記憶のあるなしをたずねればよいわけである。しかし、表9に示す例(男)では、通学体験がまったくないため、当時何年生であったという応答でなく、“まだ小さかった”あるいは“もうかなり大きくなっていて”というような年齢を仮定しがたい private event のみが得られただけである。この例のような場合は、いくつかの大胆な仮定をおいて、およその年齢を幅で示すことができるのみであろう。たとえば、表9に示した出来事(「疫病」,「日本軍上陸」など)のように、広く知られている出来事についてその記憶をたずね、それを「知らない」,「覚えていない」という応答も、一つの情報として採用し、6歳以上で生じた事件は記憶しているはずだが、5歳以下では記憶していない、といった仮定をたてて、年齢幅を設定する、などである。

また、総選挙時の投票体験はほぼ確実に記憶されているので、まず、投票の経験回数をたずね、これからおよその年齢幅を知り、これを、他の直接・間接的に利用し得る付加的情報がある限り、順次狭めてゆくこともできる。表10に示す既婚婦人の例では、投票経験は2回であるから、1955年(第1回選挙の年)当時は、まだ未成年ないし未婚であったことがわかる。表10に示す以外に、この婦人の年齢推定に利用できそうな雑情報を列挙すると、“はじめての求婚(narosán)があったのは小学校2年生のとき”、“3回目の結婚まで子供

ができず”、“4回目の結婚でふたり(うちひとり死亡)”、“5回目(現在)の結婚で5人の子供ができた”、“現在の結婚ではじめてサラムンカル部落へやってきた”、“そのとき、隣組長(R^{エツ}T)はすでに Darman 氏だった”、“現在の夫との最初の子供が妊娠8カ月目のとき、はじめて投票をした”、“2回目の投票をしたのは、そのすぐ下の子が生後4カ月目の nyangigir (表3参照)のときだった”等々である。

以上に述べた例から、その一端が示されるように、実年齢が存在すると思われる幅を狭める作業、ないし得られた推定値の吟味に必要とされる付加的情報は種々雑多である。追加的に収集しておくべき情報の種類は、ほとんどケース・バイ・ケースとしかいいようのないほど多岐にわたるから、対象者個々の属性に合わせ、その場その場で判断するしかない。

しかしながら、推定作業に有用と思われる雑情報をできるだけ多く集める努力をすべきかどうかに関しては、対象者の属性から、あらかじめ予想することができる。これらの属性は、すでに本論のところどころで触れてきたが、そのいくつかを再度述べれば、およその年齢、地付きの者か他所生まれの者か、学校体験(何年生まで在学し、何回落第したか)、親(とりわけ母親)が同一部落に現存するか、結婚歴、既婚婦人の場合は死産・流産を含む妊娠歴と出生場所、老人の場合は記憶力が確かかどうか、等々である。個々の対象者について、このような属性をあらかじめ承知しておくことにより、インタビュー、およびその後の推定作業が容易に行い得るか、あるいは非常に困難なものとなるかを事前に予想することができ、後者の場合は付加的情報収集に努力を集中する作戦をたてることができる。

む す び

筆者の年齢推定作業はひとまず終わっているが、困難な例については最終的推定年齢をきめかねている例も少なくない。今後得られると予想される追加的情報をも勘案したうえで、筆者の試みが全体としてどの程度の精度をもつかの分析・検討は改めて別稿としてまとめたい。

謝 辞

本稿に対し、調査代表者である鈴木庄亮教授（群大・公衆衛生）をはじめ、鈴木継美教授、門司和彦氏（いずれも東大・人類生態）などの諸氏から有益なコメントをいただいた。ここに記して謝辞を申し上げる。

参 考 文 献

- BPS (Biro Pusat Statistik). 1971. *Pedoman untuk Pentjatjah Sensus Sampel*. Djakarta : Biro Pusat Statistik.
- . 1980. *Buku Pedoman Pencacah Lengkap*. Pedoman VI. Jakarta : Biro Pusat Statistik.
- Carroll, Vern. 1975. Conclusion : The Field Study of Small-Island Populations. In *Pacific Atoll Population*, edited by Vern Carroll, pp. 485-523. Honolulu : The University Press of Hawaii.
- Chamratrithirong, Apichat ; Debavalya, Nibbon ; and Knodel, John. 1978. *Age Reporting in Thailand : Age at Last Birthday versus Age at Next Birthday*. Paper No. 25. Bangkok : Institute of Population Studies, Chulalongkorn University.
- Djajanegara, Siti Oemijati. 1970. *Kesulitan Mendapatkan Keterangan tentang Umur Penduduk di Indonesia*. Djakarta : Lembaga Demografi, Fakultas Ekonomi, Universitas Indonesia.
- ENI (Encyclopaedie van Nederlandsch-Indië). 1927. Tijdrekening. In *Encyclopaedie van Nederlandsch-Indië*, 2nd Ed., Vol. 5, edited by D. G. Stibbe ; and C. Spat, pp. 401-415. s'-Gravenhage : Martinus Nijhoff.
- Fortes, Meyer. 1954. A Demographic Field Study in Ashanti. In *Culture and Human Fertility : A Study of the Relation of Cultural Conditions to Fertility in Non-Industrial and Transitional Societies*, edited by Frank Lorimer, pp. 253-339. Paris : UNESCO.
- Gomez, Joan. 1967. *A Dictionary of Symptoms*. Aylesbury : Centaur Press Ltd.
- Howell, Nancy. 1979. Age Estimation and Age Structure. In *Demography of the Dobe !Kung*, pp. 23-46. New York : Academic Press.
- Hull, Terence H. 1975. The Analysis of Age Misstatement in the Maguwoharjo Fertility Survey. In *Each Child Brings Its Own Fortune : An Inquiry into the Value of Children in a Javanese Village*, pp. 399-419. Unpublished Ph. D. Dissertation. Canberra : Department of Demography, Australian National University.
- . 1976a. *An Improved Technique of Using Time Lines in Determining Ages for Demographic and Health Surveys*. Working Paper Series No. 4. Yogyakarta : Population Institute, Gadjah Mada University.
- . 1976b. *Almanak Penanggalan Jawa-Masehi untuk Penelitian Sosial-Ekonomi*. Seri Metodologi No. 2. Yogyakarta : Lembaga Kependudukan, Universitas Gadjah Mada.
- Hull, Valerie J. 1975. *Fertility, Socioeconomic Status, and the Position of Women in a Javanese Village*. Unpublished Ph. D. Dissertation. Canberra : Department of Demography, Australian National University.
- . 1980. Intermediate Variables in the Explanation of Differential Fertility : Results of a Village Study in Rural Java. *Human Ecology* 8(3) : 213-243.
- Igarashi, T. 1980. Change in Daily Activity Patterns during the Ramadan in an Islamic Society. In *Proceedings of the Second International Symposium on Asian Studies, 1980*, Vol. 3, pp. 467-477. Hong Kong : Asian Research Service.
- . 1981. *Some Notes on the Subsistence in a Sundanese Village*. Unpublished Manuscript.
- 五十嵐忠孝. 1981a. 「インドネシア人類生態学調査——とくに村落住民の生計維持機構と人口現象(2)」『第7回事業報告書, 昭和55年度』pp. 130-139所収. 東京 : 日産科学振興財団.
- . 1981b. 『西ジャワ・ブリアガン高地の水稻耕作民』未発表原稿.
- Iskandar, N. 1970. *Some Demographic Studies on the Population in Indonesia*. Djakarta : Institute of Demography, Faculty of Economics,

- University of Indonesia.
- Jackson, Karl D. 1980. *Traditional Authority, Islam, and Rebellion: A Study of Indonesian Political Behavior*. Berkeley: University of California Press.
- 加納啓良. 1979. 『パグラン：東部ジャワ農村の富と貧困』(研究双書272) 東京：アジア経済研究所.
- Kirk, Lorraine. 1975. Estimating the Ages of Children in Nonliterate Populations: A Field Method. *Journal of Cross-Cultural Psychology* 6(2): 238-249.
- Kirk, Lorraine; and Burton, Michael. 1976. Age Estimation of Children in the Field: A Follow-up Study with Attention to Sex Differences. *Journal of Cross-Cultural Psychology* 7(3): 315-324.
- LBSS (Lembaga Basa & Sastra Sunda). 1976. *Kamus Umum Basa Sunda*. Bandung: Penerbit Tarate Bandung.
- Mantra, Ida Bagus. 1981. *Population Movement in Wet Rice Communities: A Case Study of Two Dukuh in Yogyakarta Special Region*. Yogyakarta: Gadjah Mada University Press.
- Moerthiko, ed. 1979. *Almanak Tahun 1910-2011 dengan 4 Penanggalan Masehi-Imlek-Hijrah-Jawa*. 5th Ed. Semarang: Sekretariat Empeh Wong Kam Fu.
- PPPB (Pusat Pembinaan dan Pengembangan Bahasa). 1977. *Pedoman Ejaan Bahasa Sunda Yang Disempurnakan*. Jakarta: Pusat Pembinaan dan Pengembangan Bahasa, Departemen Pendidikan dan Kebudayaan.
- Sajogyo; Goenardi; Roesli, Said; Harjadi, Sri Setiati; and Khumaedi, Muh. 1980. *Menuju Gizi Baik Yang Merata di Pedesaan dan di Kota*. Yogyakarta: Gadjah Mada University Press.
- Scott, Christopher; and Sabagh, Georges. 1970. The Historical Calendar as a Method of Estimating Age: The Experience of the Moroccan Multi-Purpose Sample Survey of 1961-63. *Population Studies* 24(1): 93-109.
- Singarimbun, Masri. 1976. Kata Pengantar. In *Almanak Penanggalan Jawa-Masehi untuk Penelitian Sosial-Ekonomi*, Seri Metodologi No.2, by Terence H. Hull, p. i. Yogyakarta: Lembaga Kependudukan, Universitas Gadjah Mada.
- Singarimbun, Masri; and Manning, Chris. 1974. *Fertility and Family Planning in Mojolama*. Yogyakarta: Institute of Population Studies, Gadjah Mada University.
- . 1976. Breastfeeding, Amenorrhea, and Abstinence in a Javanese Village: A Case Study of Mojolama. *Studies in Family Planning* 7(6): 175-179.
- Soebardi. 1965. Calendrical Traditions in Indonesia. *Madjarah Ilmu-Ilmu Sastra Indonesia* 3(1): 49-61.
- Sukanda-Tessier, Viviane. 1977. Comptes Calendériques Soundanais. In *Le Triomphe de Sri en Pays Soundanais: Etude Ethnophilologique des Techniques et Rites Agraire et des Structures Socio-Culturelles*, pp. 195-234. Paris: École Française D'Extrême-Orient.
- 田中二郎. 1980. 「ブッシュマンの生態」『日本医師会雑誌』84(7): 721-735.
- 上田礼子. 1980. 『日本版デンバー式発達スクリーニング検査: JDDST と JPDQ』東京: 医歯薬出版株式会社.
- 上野福男. 1944. 『農村実態調査報告——ボゴール州スカブミ県スカブミ郡チサート村チマヒ区——』(総調資料第61号) ジャワ軍政監部総務部調査室.
- van de Walle, Etienne. 1966. Some Characteristic Features of Census Age Distribution in Illiterate Populations. *The American Journal of Sociology* 71(5): 549-555.
- You, Poh Seng. 1959. Errors in Age Reporting in Statistically Underdeveloped Countries: With Special Reference to the Chinese Population of Singapore. *Population Studies* 13: 164-182.